

2025 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名	株式会社河合楽器製作所
代表者名	代表取締役社長 執行役員 河合 健太郎 (コード番号 7952 東証プライム)
問合せ先	コーポレート戦略本部 高田 憲和 経営戦略部長
電話番号	053-457-1227

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応につきまして、現状の課題と対策、今後の計画について決議いたしましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご覧ください。

以上

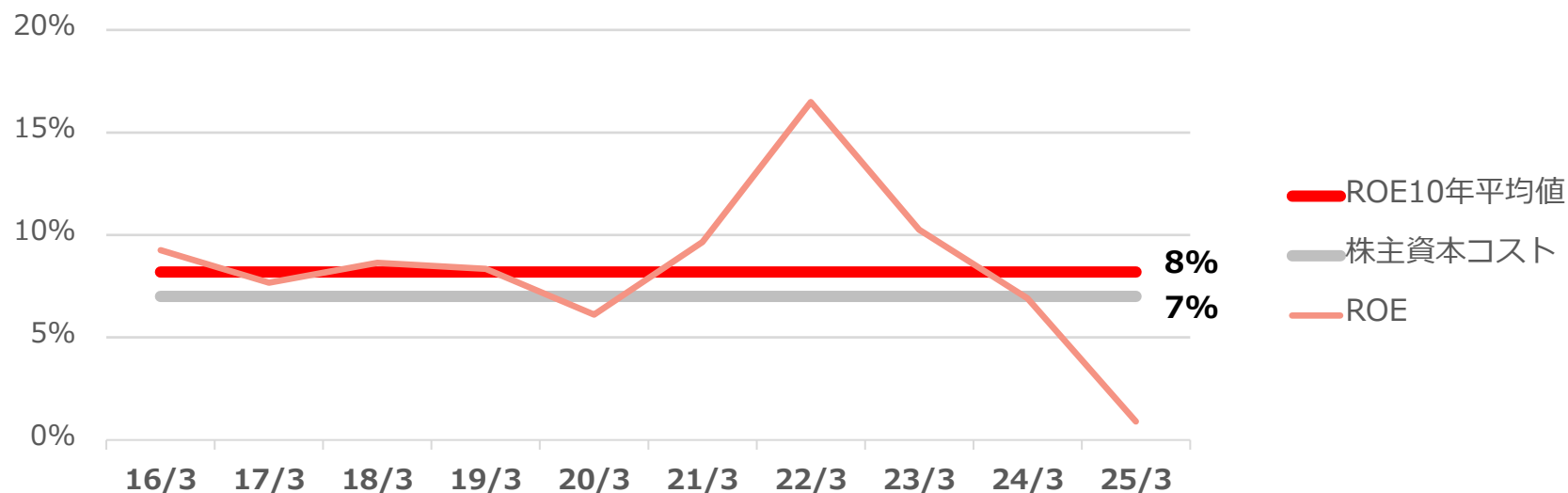
資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

2025年5月15日

株式会社 **河合楽器製作所**

- ✓ 自己資本利益率（ROE）は、巣ごもり需要期を除き、株主資本コスト（約7%と推定）を十分に上回ることができていない
- ✓ 一方、当社の株価純資産倍率（PBR）は過去10期のうち8期、1倍を下回っている

ROE・ROE10年平均値・株主資本コスト

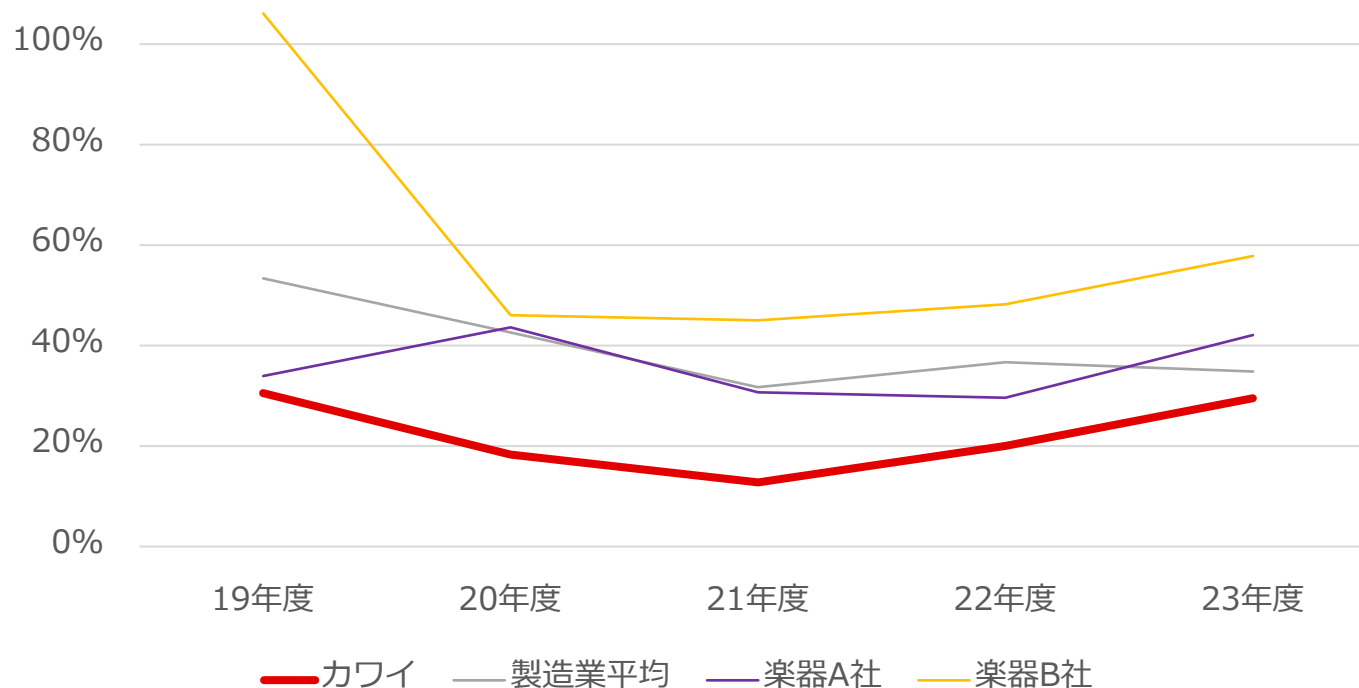


PBR (倍)	0.85	0.94	1.30	0.99	0.81	1.08	0.84	0.69	0.72	0.55
------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

当社株主資本コスト（推定） = リスクフリーレート + β × 市場リスクプレミアム = 約7%
 (CAPM) 0.9~1.0% 0.9~1.0 6.0~6.5%

- ✓ 株主還元については、配当性向は同業他社や東証プライム上場の製造業平均を下回っている

配当性向推移



※製造業平均＝東証プライム上場・製造業の平均

✓ IR情報の開示は前期と比較して一部改善したが、まだ十分ではない

IR活動実施状況

項目	2024年3月期		2025年3月期	
	評価	内容	評価	内容
ウェブサイト	△	・ 内容不十分 かつ英語情報 ほぼ無し	○	・ 決算短信の英文開示を義務化の 1年前から実施 ・ 決算説明会資料英語版を開示
決算説明会	△	・ リアル開催のみ	○	・ リアル開催に加え2024年5月 開催分からオンライン併用 ・ 開催時期を早期化 (従来は決算発表翌週、当期は 決算発表翌日に開催)
個別取材	○	・ 申込あれば全て対応、 要望に応じ役員も出席	○	・ 前期同様の対応 ・ 実施回数は減少
個人投資家向け IRイベント	△	・ 回数不十分	×	・ 未実施 (第8次中期経営計画公表後の 26/3月期に実施を計画)
機関投資家向け 工場見学会	×	・ 未実施 今後計画	×	・ 未実施 (第8次中期経営計画公表後の 26/3月期に実施を計画)

＜現状分析結果＞

- ✓ 過去10年間平均のROEは約8%であり、株主資本コスト（約7%と推定）を上回っているが、十分ではない
- ✓ 一方、当社のPBRは過去10期のうち8期、1倍を下回っている
- ✓ 株主還元については、配当性向は同業他社や東証プライム上場の製造業平均を下回っている
- ✓ IR情報の開示は不十分である

＜課題と対策＞

課題	対策
1. 市場が期待する水準までROEを高める必要がある	・ 積極的な成長投資と株主還元により資本効率を継続的に高めることでROEを向上させ、持続的な成長を目指す
2. 株主還元が不十分	・ 持続的成長と株主還元を両立させるキャピタルアロケーションを実施する
3. IR情報の開示が不十分	・ IR活動の強化（情報の非対称性の軽減）

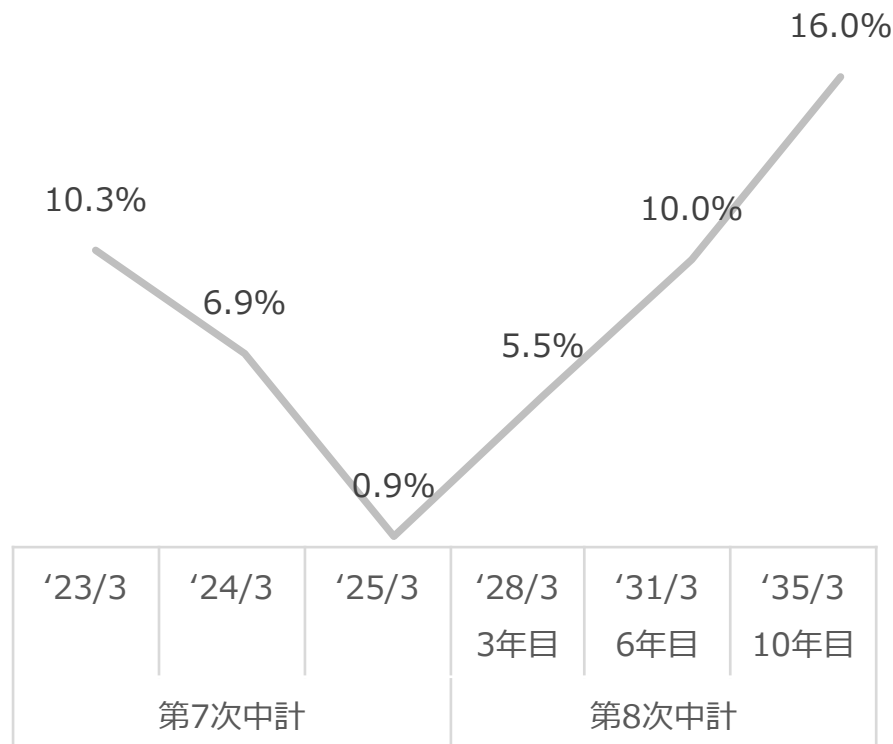
1. 積極的な成長投資と株主還元により資本効率を継続的に高める

✓ 第8次中期経営計画3年目にROE5.5%、6年目に10%、10年目に16%を目指す

B/Sマネジメント方針

総資産	負債/自己資本
必要水準の キャッシュ維持 による財務安全 性の確保	成長投資の為に必 要な借入を実施
必要以上の キャッシュは成 長投資と株主還 元に回す	累進配当 ^(※) を継続 総還元性向50% 以上を継続

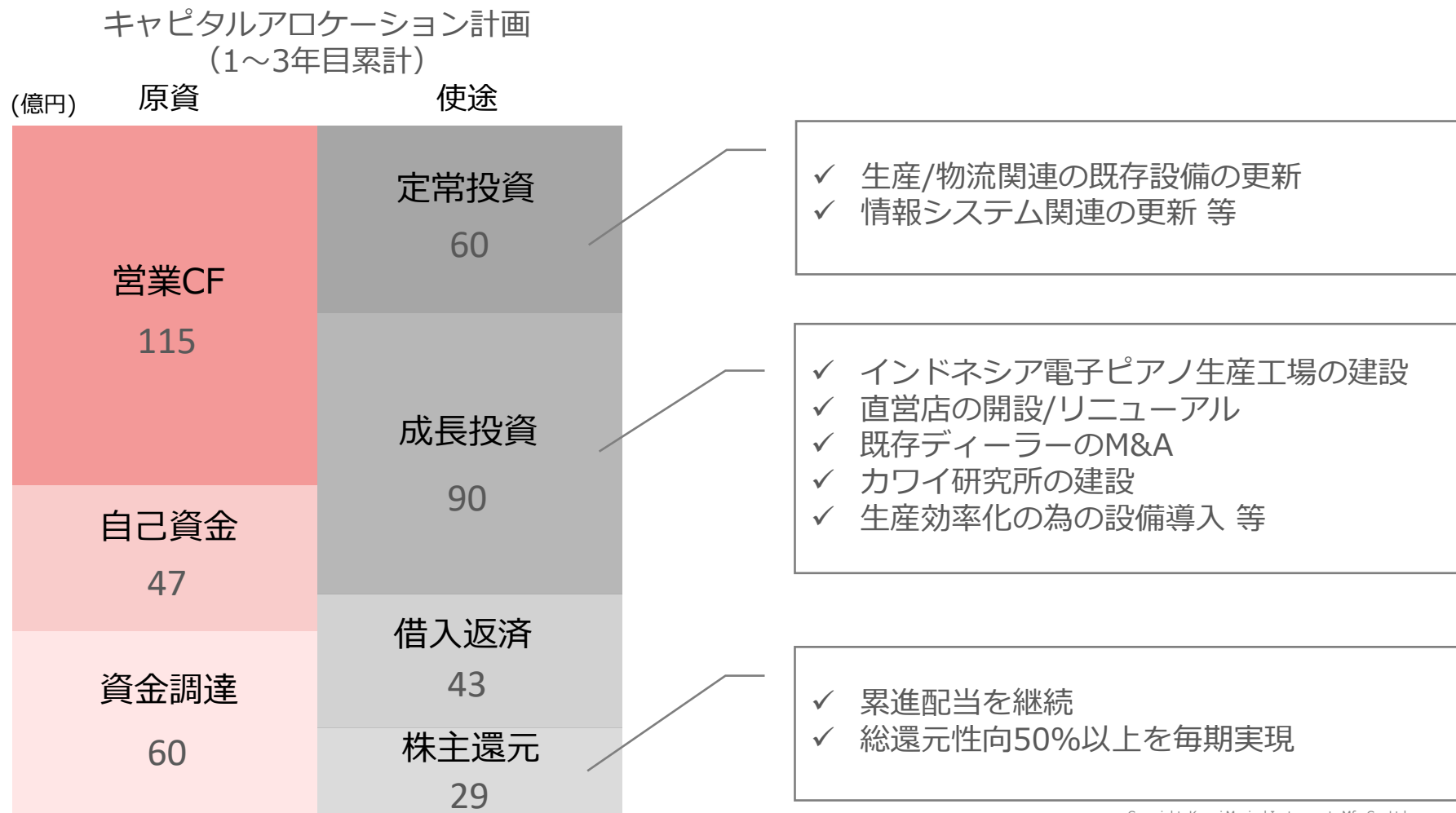
ROEの推移



※ 配当金の減配をせずに配当水準を維持、又は利益成長に合わせて増配し続けること

2. 持続的成長と株主還元を両立させるキャピタルアロケーションを実施する

- ✓ 第8次中期経営計画最初の3年間のキャピタルアロケーション計画を策定
- ✓ 累進配当を継続し、総還元性向50%以上を每期実現



3. IR活動の強化（情報の非対称性の軽減）

- ✓ 英文IR資料について、当期から英文同時開示が義務化された東証適時開示だけではなく、決算説明会資料などについても、早期の英文開示を行う
- ✓ 年2回開催の決算説明会については、会場開催に加えオンライン参加も可能なハイブリッド形式を継続し、今後も多くの機関投資家/アナリストに参加いただけるような形で実施する
- ✓ 機関投資家とのIR個別ミーティングを今後も積極的に実施する
- ✓ 個人投資家向けIRイベントへの出展と、機関投資家向け工場見学会を実施する
- ✓ 今後も効果的な情報開示によって情報の非対称性を軽減し、当社の成長性に対する株主・投資家の確信度を高めるための取組みを行っていく

これらの取り組みを通じ、当社は、株主や投資家の皆様から当社の成長性を適切に評価していただくことを基本的な方針とし、PBR1倍以上を早期に目指してまいります。

KAWAI

本資料に記述されている当社の業績予想、将来予測などは、当社が作成時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、経済情勢、販売競争の激化、知的財産権に関するリスクなど、様々な外部要因・内部要因の変化により、実際の業績、成果はこれら見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。